令和4年度第2回(第55回)栗東歴史民俗博物館協議会 議事録

開催日時 令和5年1月19日(木曜日)10時00分から11時30分まで

開催場所 栗東歴史民俗博物館 研修室

出席者

協議会委員 西尾 悦子(会長)、月野 みつ(副会長)、
宇野 日出生、大西 洋子、大橋 信弥、奥野 初恵、川那部 隆徳、
國賀 由美子、澁江 善光、鈴木 元彦 の各委員(10名)

事務局 小山 領一(教育部次長 兼 スポーツ・文化振興課 課長
兼 歴史民俗博物館 館長)

木村 毅(歴史民俗博物館 副館長)
大西 稔子(歴史民俗博物館 係長 ・ 学芸員)
中川 敦之(歴史民俗博物館 主査 ・ 学芸員)

欠席者

なし

傍聴者 0名

概要

1. 開 会

2. 協議事項

- ①令和4年度博物館事業について
- ②令和5年度博物館事業について
- ③その他

3. 閉 会

議事

1. 開 会

開会のあいさつ（西尾 悦子 会長）

開会のあいさつ（小山 領一 館長）

2. 協議事項

①令和4年度博物館事業について

②令和5年度博物館事業について

資料に沿って、事務局 大西 稔子 係長より一括説明。

- (A 委 員) この先開催される「第53回栗東市青少年美術展覧会」や「第69回滋賀県教育美術展」とはどのような展覧会か。
- (事 務 局) それぞれ、栗東市内・滋賀県内の幼児・児童・生徒を対象とした作品展である。学校単位で出品され、特選に選ばれた作品が展示される。
- (A 委 員) 博物館教室「昔の暮らし」の対象は何年生か。
- (事 務 局) 社会科の単元「市の様子と人々の暮らしのうつりかわり」と連動して、小学3年生を対象としている。
- (A 委 員) 文化財関連事業への講師派遣等を行っているとのことだが、どのような職員が講師を務めているのか。
- (事 務 局) 現在、学芸系の職員として、正規職員の学芸員が2名、会計年度任用職員の歴史民俗調査員が2名おり、ご依頼いただいた内容などに応じて、派遣する職員を決定している。
- (A 委 員) 歴史民俗博物館の収蔵庫を見学する機会を設けていただくことはできないか。
- (館 長) 収蔵庫の一般公開は行っていないが、協議会委員の皆様にご覧いただくことには意義があると思うので、次年度に向けて検討したい。
- (副 館 長) 本日、現在開催中の生誕120年記念「西田恵泉—ふるさとを愛したまなざし—」のチラシをお配りしているが、その裏面に「第53回栗東市青少年美術展覧会」や「第69回滋賀県教育美術展」についても記載している。ぜひご来館いただきたい。
- (B 委 員) 現状の人員・予算の中で、最大限の事業を展開していると感じる。特に、毎年取り組んでいる“小地域展”は有意義な活動であり、継続していただきたい。栗東町史編さん事業の終結から四半世紀以上が経ち、所蔵者が持ち続けることが困難になっている資料、当時は見つけられなかった資料などがあると思うので、収蔵資料の充実につながる取り組みだと思う。今年度、トイレの改修工事が実施できたことは良かったが、展示ケースに

についても更新が必要な時期に来ているのではないか。

市民学芸員の会で『称名念仏奇特現証集』の輪読会を開催されているとのことだが、その成果を公表される予定はないのか。

また、歴史民俗博物館とは別だが、かつて「栗東夏まつり」で、足利義尚騎馬行列を出していた際に、足利義尚の甲冑を作製していたように記憶しているが、現在、どうなっているのか。

(事務局) “小地域展”についてはご指摘のとおりで、栗東町史編さん事業での成果の再確認、新たな資料の発見に力を入れており、必要に応じて資料収集を行っている。

展示ケースの更新についても、必要性は認識している。

輪読会の成果については、講師を務めて下さっている当館の佐々木 進元館長(現:博物館資料取扱指導員)でも活字化しておられ、今後の公表についても何かお考えのことがあるように思う。

足利義尚の甲冑については、足利義尚を描いたものという言い伝えのある肖像画を模して作製したとは伺っているが、時代考証などについて歴史民俗博物館として関わったものではない。

(館長) 市役所1階の情報公開コーナー付近で展示しており、ご覧いただける。

(C委員) 過去の入館者数の推移を見ると、平成27年度だけ突出して多いようだが、何か要因はあるのか。

(事務局) 市民学芸員の会で調査・整理をして下さった「竹村定治コレクション」(鉄道模型コレクション)の展覧会とともに、その関連企画として、外部の団体にもご協力いただいて鉄道模型の運転会を開催したことが要因である。

(C委員) 集客につながる要素があるのなら、また取り上げて良いように感じる。

(D委員) 現在、生誕120年記念「西田恵泉一ふるさとを愛したまなざし」を開催しており、この先には「第53回栗東市青少年美術展覧会」や「第69回滋賀県教育美術展」を開催されるなど、歴史民俗博物館が美術館の役割も担っているように思う。また、栗東音楽振興会(RISS)でも年に3回、教育委員会との共催事業であるRISSミュージアムロビーコンサートの会場として、歴史民俗博物館を使用しているが、栗東芸術文化会館さきらとの関係も含めて、市として芸術や文化の拠点をどのように考えておられるのか。

(館長) 歴史民俗博物館は博物館であって美術館とは位置付けておらず、「第53回栗東市青少年美術展覧会」や「第69回滋賀県教育美術展」は、貸し館業務の一環と捉えている。

また、市の芸術や文化の拠点は、あくまでも栗東芸術文化会館さきらである。

(E委員) 修繕工事の中に、可動式展示ケースやロビー天井のLED化があがっている

が、展示室のLED化は済んでいるのか。

令和5年度の重点目標として「施設の大規模改修計画について具体化」とあるが、どのように進めるのか。

令和5年度の展覧会として収蔵品展「金勝寺文化圏の諸像—良弁僧正1250年御遠忌によせて—」を計画しているが、本来、“収蔵品展”に止まらない規模の展覧会が開催できるテーマだと思う。同じく収蔵品展「文化財をつなぐ—修復文化財の世界—」についても、保存技術の継承も含めてさまざまな展開ができるよう思うが、どのような内容を考えているのか伺いたい。

- (館長) まず大規模改修については、市の公共施設等総合管理計画に基づいて、各所属が中長期の計画を策定し、特定事業として採択されたものを進めていくという流れがある。
- (E委員) 市の財政事情などもあるかとは思いますが、博物館は文化財を収蔵する施設であり、資料の安全を第一に、保守点検ともあわせて先手を打って対処していただきたい。
- (館長) 保守点検は行っており、必要な修繕・更新も適宜実施している。博物館施設の特性も含めて、今後も大規模改修の必要性を訴えていきたい。
- (事務局) 収蔵品展「金勝寺文化圏の諸像—良弁僧正1250年御遠忌によせて—」では、寄託品も含めた彫刻を中心に展示する。金勝寺ゆかりの僧・良弁僧正の1250年御遠忌ということで、良弁僧正に直接関わりのある資料は収蔵していないものの、金勝寺を中心に展開した栗東の仏教文化を紹介したい。また、金勝寺でご所蔵の良弁僧正のお像や、現在、滋賀県立琵琶湖文化館に寄託されており、令和3年(2021)年に滋賀県指定有形文化財に指定された「銅独鈷杵・銅五鈷杵」など、関連する資料の借用についても交渉したいと考えている。
- 収蔵品展「文化財をつなぐ—修復文化財の世界—」では、過去に修復を行った資料を多く収蔵していることもあり、それらを中心に展示する。また、近年、文化財の修復について所蔵者の方からご相談を受ける機会が増えている。ご指摘のような保存技術の継承もそうだが、そもそも文化財を伝えていくためには、適切な修復が必要なことを知っていただく機会としたいという思いがある。歴史民俗博物館で借用したことをきっかけに、文化財の修復を検討されている所蔵者の方もおられ、そのような事例も紹介できればと考えている。
- 展示室のLED化はまだ実施できていない。館長も申し上げたように、施設や設備の保守点検を行う中で、必要となった修繕・更新を実施するという流れがあるが、ロビー天井のLED化は電気系統の劣化をきっかけに実施す

ることとなったものである。展示室をLED化する場合、大規模な工事となるが、ロビー天井のLED化でのノウハウを活かして具体化していきたい。

(A 委員) 令和5年度に参加を検討されている「博物館夏祭り」とはどのようなものか。
(事務局) 県内の博物館・資料館が合同でワークショップを行うものである。株式会社平和堂から補助金をいただく関係もあり、会場はJR南彦根駅前のビバシティ彦根のイベントホールを用いる。

(F 委員) 博物館での展覧会の開催や施設の維持管理には、予算が必要である。この協議会でも、予算については知っておく必要があると考えており、当該年度の予算の額や、前年・前々年比などを可能な範囲で示していただきたい。予算の確保や人員の充足など、この協議会でも必要性を訴えるバックアップができればという思いもある。

また、近年、考古資料の展覧会がない。市や県の発掘調査は進んでおり、速報展・成果展を開催してはどうか。令和4年に教育委員会と公益財団法人栗東市スポーツ協会との共催で、シンポジウム「いま栗太郡衙を考える～岡遺跡発掘35年～」が開催されたが、国の史跡指定への思いも含めて、地域の盛り上がりを感じた。年内にシンポジウムの内容を書籍化すると聞いており、令和5年度に開催する小地域展「岡の歴史と文化」とあわせてPRしてはどうか。

(館長) 予算については、次回以降、資料としてお示しするようにしていきたい。考古資料の展覧会については、現在、市の埋蔵文化財発掘調査の事務を担っているのがスポーツ・文化振興課文化財保護係で、実際の調査や整理は出土文化財センターが行っている。出土文化財センターでも部分的に公開しているものの、歴史民俗博物館での展覧会についても考えていきたい。

(G 委員) 博物館教室「昔のくらし」では、児童がお世話になりありがたく思っている。

「平和のいしずえ」展に関連して、現在、小学6年生向けに滋賀県平和祈念館から講師を招いているが、歴史民俗博物館でも対応してもらえるのか。

(事務局) 開館以来、毎年「平和のいしずえ」展を開催しており、十分な蓄積を持っている。それぞれの学区に応じたお話しなどもさせていただけるので、ご活用いただきたい。

3. 閉 会

閉会のあいさつ (月野 みつ 副会長)